

調査・事例報告

嶺南師範学院の日本語学科カリキュラム及び 学生のニーズに関する報告

中村 純子

A Report on the Curriculum of the Japanese Language Department
and Student Needs at Lingnan Normal University

NAKAMURA Junko

要 旨

2016年度より本学は中国、韓国の大学、特に中国の嶺南師範学院から多くの交換留学生を受け入れている。筆者は日本語、日本関係の授業の担当者として学院からの留学生の既習事項と本学での日本語、日本関係の授業へのニーズを知る必要性を感じた。そこで学院を訪問し、調査を行った。その結果、学院の日本語学科カリキュラムは日本語技能、日本事情、就職に対応した課程を有しており、非常に充実していることが分かった。しかし、「書くこと」に関する授業が少ないことも分かった。嶺南師範学院の学生、他の留学生のニーズも日本語を活かした就職であることを考え合わせ、本学の日本語の授業では「書くこと」を中心とした授業の充実が妥当だと考えた。

キーワード

中国 交換留学生 日本語学科カリキュラム ニーズ

目 次

- I. はじめに
- II. 嶺南師範学院の日本語学科カリキュラム
- III. 嶺南師範学院学生の留学に対するニーズ調査
- IV. 総括及び本学の日本語、日本関係の授業へのニーズ

文献

I. はじめに

2016年度より、松本大学および松本大学松商短期大学部のグローバル化の一環として中国、韓国の大学から交換留学生を受け入れている。その中で中国の嶺南師範学院から最も多くの交換留学生を受け入れており、2016年度には3名、2017年度、2018年度にはそれぞれ5名の交換留学生が本学で1年間在籍し、学んでいる。交換留学生は簿記、マーケティング、心理学、福祉関係などの専門科目、「茶道」「華道」などの日本の伝統文化を体験する授業等、それぞれの興味に合わせて履修している。

報告者の日本語の授業―「日本語入門」、「日本語応用」、また日本関係の授業―「異文化コミュニケーションスキル」、「日本事情」などの授業を履修する学生も多い。日本語、日本関係の授業の担当者として、留学生の既習事項と本学での日本語、日本関係の授業へのニーズを知る必要があると考えた。そこで2018年3月18日から3月23日まで、嶺南師範学院を訪問し、調査を行った。本報告書では嶺南師範学院の日本語学科のカリキュラム、学生のニーズについての調査結果を記し、本学の日本語および日本関係の授業に対するニーズを検討する。

II. 嶺南師範学院の日本語学科カリキュラム

1. 嶺南師範学院、日本語学科及び交換留学生について

嶺南師範学院¹⁾は中国の広州湛江市に位置する大学である。学生数約22,000名、教職員数1,450名を擁する4年制の大学である。16の学科を有している。交換留学生の属する日本語学科は、もうひとつの学科、英語学科とともに外国語学部をなす。日本語学科の学生数約300名、教員数は

8名で、うち2名は日本人教員である。嶺南師範学院はかつて教員の養成を目的としていたようだが、現在は広く人材養成を目的としている。卒業後は企業に就職するものも多い。

学期は1年2学期制、9月入学である。しかし、日本の多くの大学のように前期、後期という概念ではなく、4年間で8つの学期をなすと考える。つまり1学期・2学期が1年生、3学期・4学期が2年生、5学期・6学期が3年生、7学期・8学期が4年生となる。現在まで松本大学に在籍した交換留学生は、全13名のうち2名を除き、11名が3年生で、5学期まで終えた学生である。彼らは3年生の後期、つまり6学期から、4年生の前期、7学期まで、1年間交換留学生として松本大学に在籍する。なお、交換留学生は松本大学において前期(松商短期大学部1学期、2学期)で9科目以上、後期(松商短期大学部3学期、4学期)で5科目以上を履修し、単位を取得できれば、卒業に必要な条件を満たす。

日本語能力の到達目標としては1年の前期でN5(日本語能力検定試験5級)、1年後期はN4、2年前期はN3、2年後期はN2、3年前期にN1を取得することを目標としている。実際本学に留学してくる交換留学生はN2には全員合格している。既にN1を保持している学生もいる。

2. 嶺南師範学院日本語カリキュラム

1) 嶺南師範学院日本語学科カリキュラム概要

まず、嶺南師範学院の日本語学科カリキュラムについて記す(表1参照)。日本語学科カリキュラムには、一般教養課程、専門教育課程、職業教育課程があり、それに卒業論文を加え、168単位以上を取得することが規定されている。一般教養課程は必修と選択がある。必修には思想、政治、教育類、技能類としては第二外国語、大学コンピュータ入門(エクセル、ワード、PPT)、国語がある。第二外国語は日本語学科の学生にとっては英語である。他にはスポーツ、中国情勢系列

講座、入学教育軍事訓練、大学生心理健康系列講座がある。入学教育軍事訓練とは心身共に軍人のように鍛えることを目的としている。女子学生も参加し、行進、敬礼等も体験する。これら、必修で36単位前後を取得する。さらに選択として、社会科学、人文科学、自然科学、芸術・美術、技能及びその他の課程(日本語学科課程以外の課程2単位以上を含む)がある。これら選択から10単位前後を取得する。必修の36単位前後というのは、必修であっても履修しない科目があるという意味ではなく、スポーツなどの必修科目において身体的理由などで履修できない場合は、免除されるということである。その場合は選択科目で

補わなければならない。それが選択の10単位前後の意味である。あくまで必修と選択を合わせて一般教養課程の単位として46単位を取得しなければならないのである。専門教育課程は必修と選択がある。必修は専門必修科目、選択は専門限定選択科目、つまり日本語学科の学生しか選択が出来ない科目と、そのような制限のない専門任意科目がある。それぞれ、48単位、30単位、10単位で、合計88単位を取得する。職業教育課程は選択で限定科目と任意科目それぞれ10単位、それに実習・インターンシップ14単位を加え、34単位取得する。さらに卒業論文の単位、5単位が加わり168単位以上取得の卒業要件が満たされる。

表1 【嶺南師範学院日本語学科カリキュラムと単位】²⁾

カリキュラム				単位		単位
一般 教養 課程	必修	思想 政治 教育類	思想道德教養法律基礎	2	36±	46
			中国近代・現代歴史概要	1.5		
			マルクス主義と基本原理	2		
			毛沢東思想中国特特色社会主義理論体系概論	4		
		技能類	第二外国語	12		
			大学コンピュータ入門（エクセル・ワード・PPT）	4		
			国語	2		
		他	スポーツ	4		
			中国情勢系列講座	2		
			入学教育軍事訓練	2		
			大学生心理健康系列講座	0.5		
		選択	社会科学、人文科学、自然科学、芸術・美術、技能及びその 他課程（日本語学科課程以外の課程2単位以上を含む）	10±		
	専門 教育 課程	必修	専門必修科目	48	48	88
選択		※専門限定選択科目	30	40		
		専門任意科目	10			
職業 教育 課程	選択	※限定科目	10	20	34	
		任意科目	10			
	実習・インターンシップ			14		
卒業論文（卒業論文）				5		
卒業単位要求				≥168単位		

※限定(当該・この場合日本語学科の学生のみが選択できる科目)

2) 専門教育課程詳細

専門教育課程の詳細は表2に示す。専門必修科目では、「基礎日本語」を1学期から4学期まで履修し、5学期から7学期までは「上級日本語」に移行する。6学期の「日本語翻訳理論実践」は中国語及び日本語が堪能な教員がいる大学ならではの授業である。「日本国概論」などの日本語技能以外の科目もある。専門限定選択科目としては4技能(話す、聞く、読む、書く)習得のための「日本語会話Ⅰ～Ⅳ」(1学期から4学期)、「日本語聴解Ⅰ～Ⅴ」(1学期から5学期)、「日本語読解Ⅰ～Ⅲ」(3学期から5学期)などがあり、これに「日本語作文」(5学期)が加わる。その他には「日本歴史」(5学期)などもある。専門任意科目では「日本文学概論」(7学期)、「日本語雑誌」(6学期)、「ビジネス日本語」(4学期)、「日本語総合スキル訓練」(5学期)などがある。「日本語総合スキル訓練」(5学期)の内容は担当の教員によって異なる。さらに「日本語言語学」(4学期)も学べるようになって

いる。

3) 職業教育課程詳細

職業教育課程では2つのコースがある。「国際ビジネスコース」と「会計コース」である(表3、表4参照)。これらの授業のほとんどが中国語で行われる。「国際ビジネスコース」では限定科目のなかに「英語総合訓練」、「ヒューマンリソースマネジメント」、「統計学」、「外国事情と外国礼儀」、「世界経済概論」、「進路指導シリーズ講座」がある。そして任意科目には、「マーケティング調査と分析」、「経済法」、「国際マーケティング」、「国際貿易理論と実務」、「通関実務」がある。さらに実習・インターンシップで「国際ビジネスコース」、「会計コース」の2つのコース共通科目として「日本語トレーニング1～4」、「企業見習1～2」、「社会実践」、「インターンシップ」がある。

「会計コース」では限定科目としては「国際ビジネスコース」と同様に「英語総合訓練」及び「進路指導シリーズ講座」があり、「会計コース」に

表2 【嶺南師範学院日本語学科専門教育課程詳細】³⁾

		科目名	履修学期
必修	専門必修科目	基礎日本語Ⅰ～Ⅳ	1学期、2学期、3学期、4学期
		上級日本語Ⅰ～Ⅲ	5学期、6学期、7学期
		日本語翻訳理論実践	6学期
		日本国概論	1学期
選択	専門限定選択科目	日本語会話Ⅰ～Ⅳ	1学期、2学期、3学期、4学期
		日本語聴解Ⅰ～Ⅴ	1学期、2学期、3学期、4学期、5学期
		日本語通訳理論実践Ⅰ～Ⅱ	5学期、6学期
		日本歴史	5学期
		日本語作文	5学期
		日本語読解Ⅰ～Ⅲ	3学期、4学期、5学期
	専門任意科目	日本文学概論	7学期
		日本語雑誌(新聞・雑誌)	6学期
		ビジネス日本語	4学期
		日本語総合スキル訓練	5学期
		日本語言語学	4学期

※履修学期の斜体は交換留学生が本学に在学中に開講される科目に対応する。

特色あるものとして「初級会計学」、「財務会計学」、国際貿易理論と実務」、「通関実務」がある。
「統計学」、「コンピュータ会計」がある。任意と
しては「財務管理」、「経済法」、「原価計算」、「国

表3 【嶺南師範学院日本語学科職業教育課程詳細(国際ビジネスコース)】³⁾

		科目名	履修学期
選 択	限定 科目	英語総合訓練	1学期
		ヒューマンリソースマネジメント	5学期
		統計学	6学期
		外国事情と外国礼儀	7学期
		世界経済概論	7学期
		進路指導シリーズ講座	1学期及び7学期で4時間ずつ
	任意 科目	マーケティング調査と分析	7学期
		経済法	6学期
		国際マーケティング	7学期
		国際貿易理論と実務	6学期
		通関実務	6学期
	実習 インターン	日本語トレーニング1～4	2学期～5学期
		企業見習い1～2	6学期、7学期
		社会実践	毎学期
		インターンシップ	8学期

※履修学期の斜体は交換留学生在が本学に在学中に開講される科目に対応する。

表4 【嶺南師範学院日本語学科職業教育課程詳細(会計コース)】³⁾

		科目名	履修学期
選 択	限定 科目	英語総合訓練	1学期
		初級会計学	5学期
		財務会計学	6学期
		統計学	7学期
		コンピュータ会計	7学期
		進路指導シリーズ講座	1学期及び7学期で4時間ずつ
	任意 科目	財務管理	7学期
		経済法	6学期
		原価計算	7学期
		国際貿易理論と実務	6学期
		通関実務	6学期
	実習 インターン	日本語トレーニング1～4	2学期～5学期
		企業見習い1～2	6学期、7学期
		社会実践	毎学期
		インターンシップ	8学期

※履修学期の斜体は交換留学生在が本学に在学中に開講される科目に対応する。

4) 嶺南師範学院日本語学科カリキュラムまとめ

以上のように、嶺南師範学院日本語学科のカリキュラムは単に日本語習得のみならず、日本語を使つてのビジネスにも強いカリキュラムだといえる。これは中国の最近の傾向であるといえる。邢(2017)⁴⁾によると、中国では2001年に「日本語教学大綱」が作られ、日本語教育の全国的な教学指針と評価基準ができ、日本語専攻の等級テストが始まった。その大綱をもとに「話す」、「聞く」に力を入れ、さらに異文化コミュニケーション力を重視し、日本文化、日本社会などの授業を設置する大学が増えたという。そして、大学間の競争が激化するなか、それぞれの大学が競争に打ち勝つために専門日本語—教育、観光、ビジネス等に力を入れることとなった。嶺南師範学院日本語学科では日本語能力の養成とともに、ビジネスに強い日本語にも力を入れていることが、カリキュラムから窺える。本学の教員が2016年度より嶺南師範学院での講義の一部を担当しており、簿記、経済などを教えているのはこの流れの中にあると言っていい。嶺南師範学院の学生は中国に居ながら日本の全経簿記2級、3級などの資格取得ができ、日本語を活かした就職に有利となっている。

交換留学生の視点に立つと、専門日本語教育課程の一部、職業教育課程の科目のほとんどが交換留学生が松本大学に留学中に開講されており、交換留学生は履修することができない。しかしながら、松本大学で開講されている科目と内容的に近いものが多い。したがって、これらの関連科目を松本大学で履修すれば母国で学ぶ学生と遜色がないばかりか、授業が日本語で行われることで、日本語能力および日本事情に関する知識をさらに伸ばすことができ、中国にある日系企業、日本での就職に有利となると思われる。

Ⅲ. 嶺南師範学院学生の留学に対するニーズ調査

1. 調査概要

上記のような日本語カリキュラムで学んでいる嶺南師範学院学生の留学に対するニーズを探る目的で以下のような調査を行った。

調査日時:2018年3月20日、21日

調査場所:嶺南師範学院

調査対象者:日本語学科2年生(33名:女性27名
男性5名 不明1名)
日本語学科3年生(68名:女性59名
男性3名 不明6名)

調査方法:アンケート調査

2. 調査結果

1) 日本滞在経験

まず、日本滞在経験について聞いた。日本滞在経験のある学生は2年生、3年生の被検者数の合計101名のうち、8名だけで、そのうち1名を除き、すべて松本大学短期日本語プログラムの経験者であった。嶺南師範学院の学生にとって、松本大学が日本への留学の大きな比重を占めていることが分かる。

2) 日本を勉強する目的

次に日本語を勉強する目的について調査した(図1参照)。多くの学生が日本語を学ぶ目的に就職をあげていることが分かる。「日本語を活かした仕事」は65名、「中国で日系の企業に就職」は54名、「日本で日本の企業に就職」は25名という結果となった。複数回答のため、重複して回答した者もいるが、やはり就職を目的としている者が多いことが分かる。「日本のドラマ、映画、アニメの理解」も65名と「日本語を活かした仕事」と並んで多かった。また「日本語、日本文化が好

き」という回答も60名と多かった。日本語学科であるので、ある意味当然といえるかもしれないが、日中の歴史的経緯、政治的関係などを考えると、やはり日本に好意的な学生が多いと思われる。日本留学を目的とする学生は22名で、それほど多くはない。様々な要因が考えられるが、これについては次節で詳しく述べる。

3) 日本への留学希望

次に日本への留学希望について調べてみた。日本に留学を希望している学生は101名中、「とてもしたい」は21% (21名)、「したい」は57% (57名) で、合計78% (78名)、約8割が希望していた。「あまりしたくない」17% (17名)、「したくない」4% (4

名)、合計21% (21名) で、約2割であった。多くの学生が日本の大学に留学を望んでいるようだが、受け入れ大学の数、また人数には限界があり、現実的には日本留学は狭き門となっているようである。既述の日本語の勉強の目的に留学を目的とする学生が少ないのも、ひとつにはこの現実を理解しているからだと思われる。

4) 日本語の最も難しい点

次に日本語の最も難しい点を自由記述で調査した(図3参照)。「最も難しい点」と尋ねたのだが、実際は複数あげている学生が多かった。「敬語」が最も多く、74名、次に「文法」26名、「聴解」19名と続く。「作文」、「発音」などをあげた学生も8名

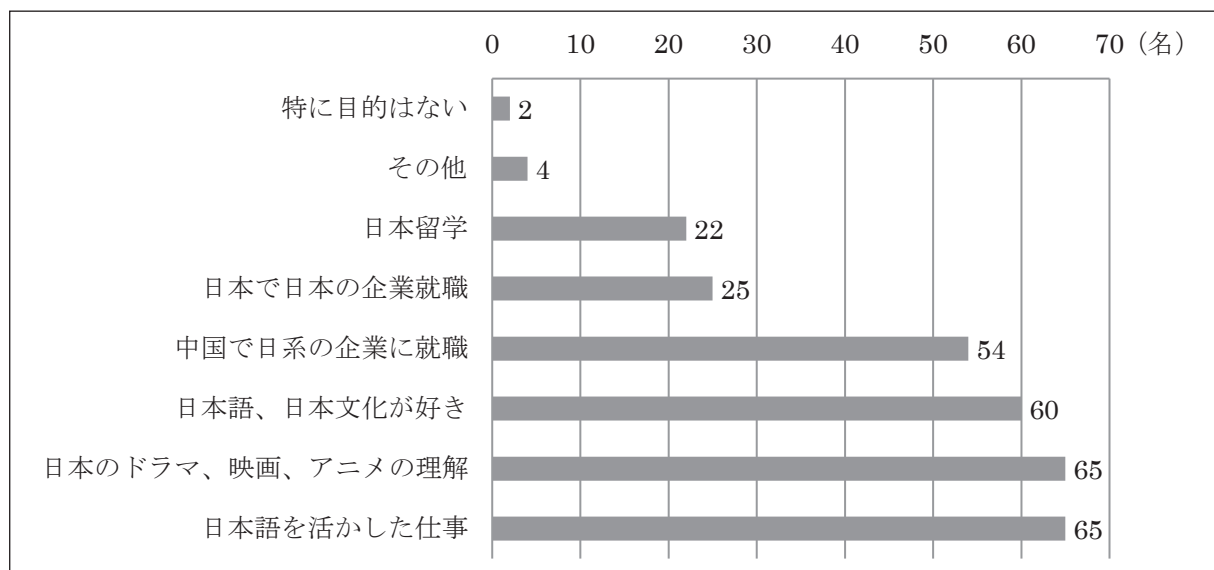


図1. 【日本語を勉強する目的】(複数回答)

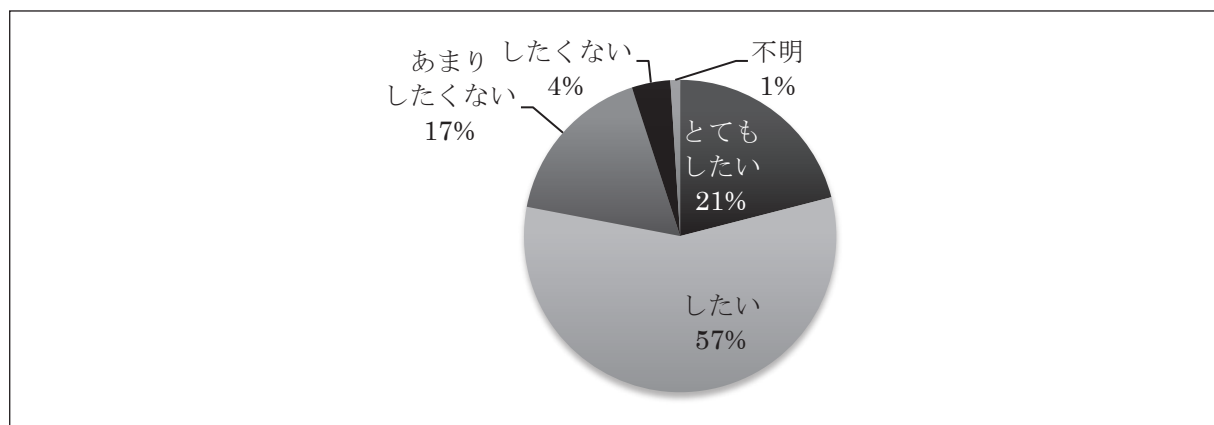


図2. 【日本への留学希望】

ずつ存在した。さらに、少数ではあるが、単に技能的なことだけでなく、文化的なことである「礼儀」、「空気を読むこと」などもあげられており、嶺南師範学院の学生の異文化理解に対する意識の高さが窺える。1名からの回答はその他に分類したが、その中にも「人間関係」、「日本文化」、「異文化理解」などの異文化理解に関することがあげられていた。その他には「勉強したことの活用」、「副詞」、「語彙」、「ことわざ」、「擬態語」などがあげられており、日本語をよく勉強していることが分かる回答であった。

5) 日本に留学して学びたいこと

次に「日本に留学したら何を学びたいか」を自由に書いてもらった(図4、5、6参照)。これは日本留学を「とてもしたい」、「したい」と答えた78名の学生のみに答えてもらった。日本語関係、日本関係(日本事情、異文化コミュニケーション)、日本語、日本関係以外に分けて図にした。まず、日本語関係の日本語では、「会話」が57名と多い。嶺南師範学院では日本人がほとんどいない環境で日本語を勉強しているので、会話を実際使う場面は少ないが、日本に来れば、日本語を話す環

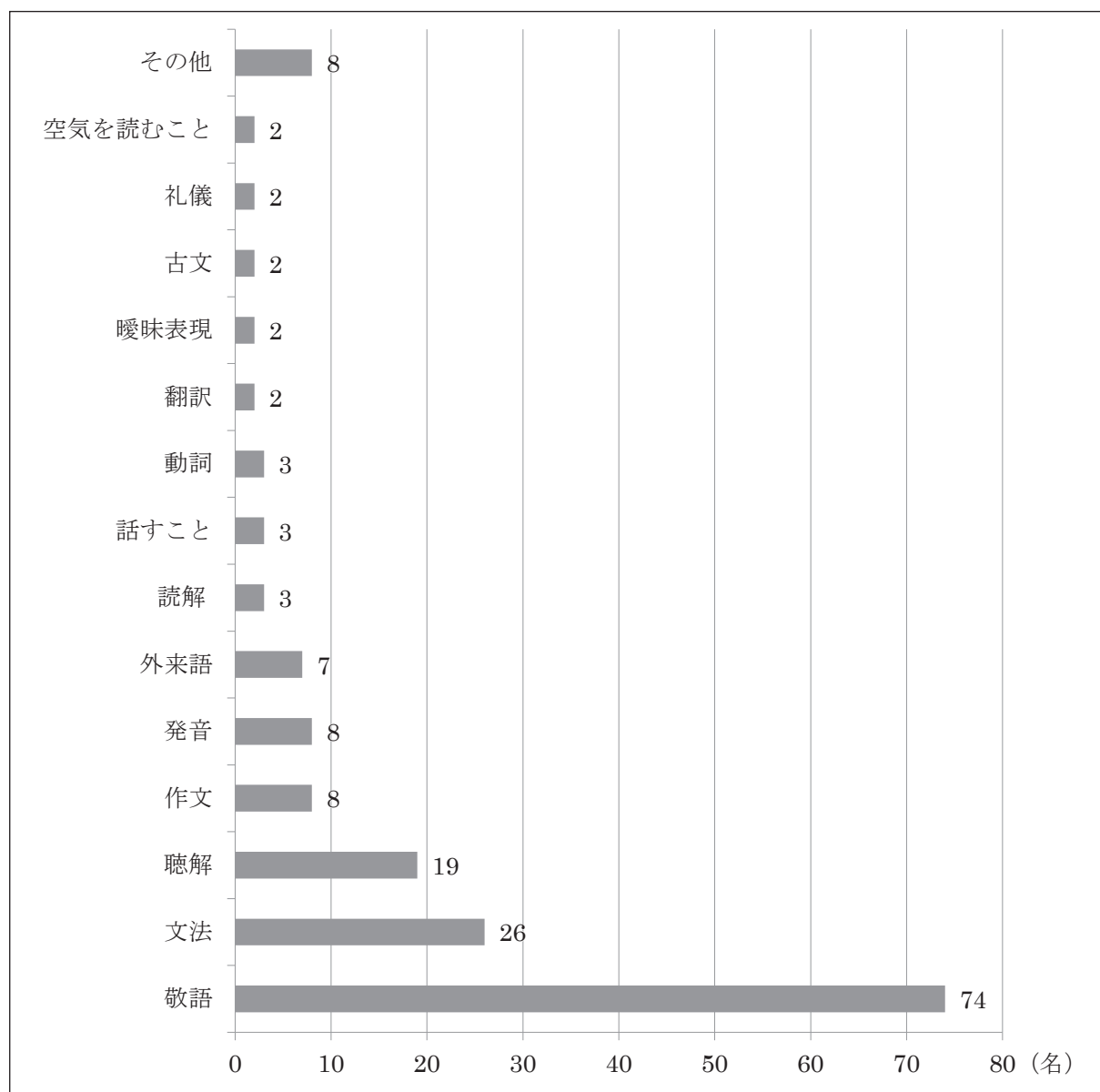


図3. 【日本語の最も難しい点】

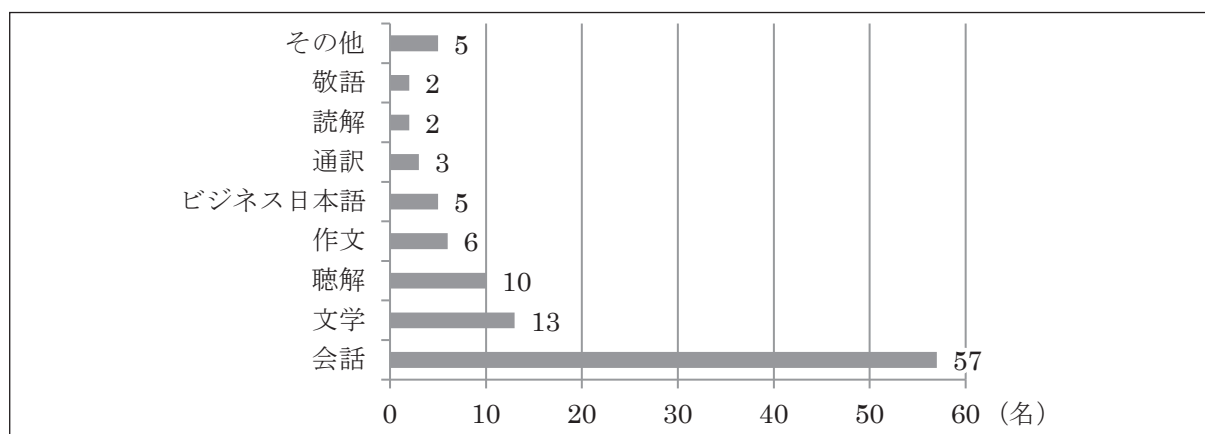


図4. 【日本に留学して学びたいこと（自由記述）—日本語関係】

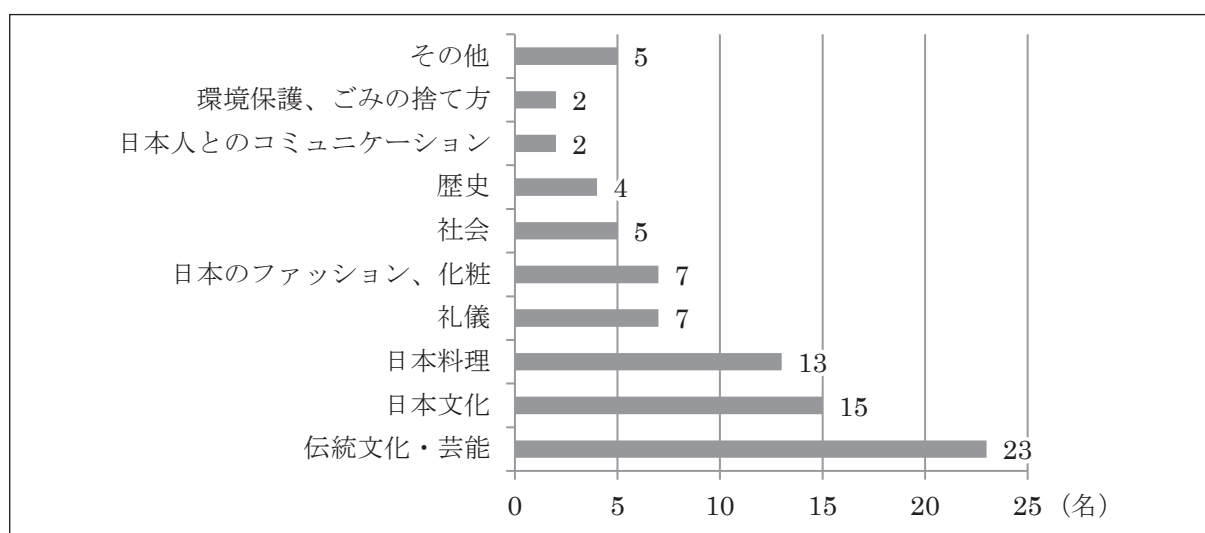


図5. 【日本に留学して学びたいこと（自由記述）—日本事情関係】

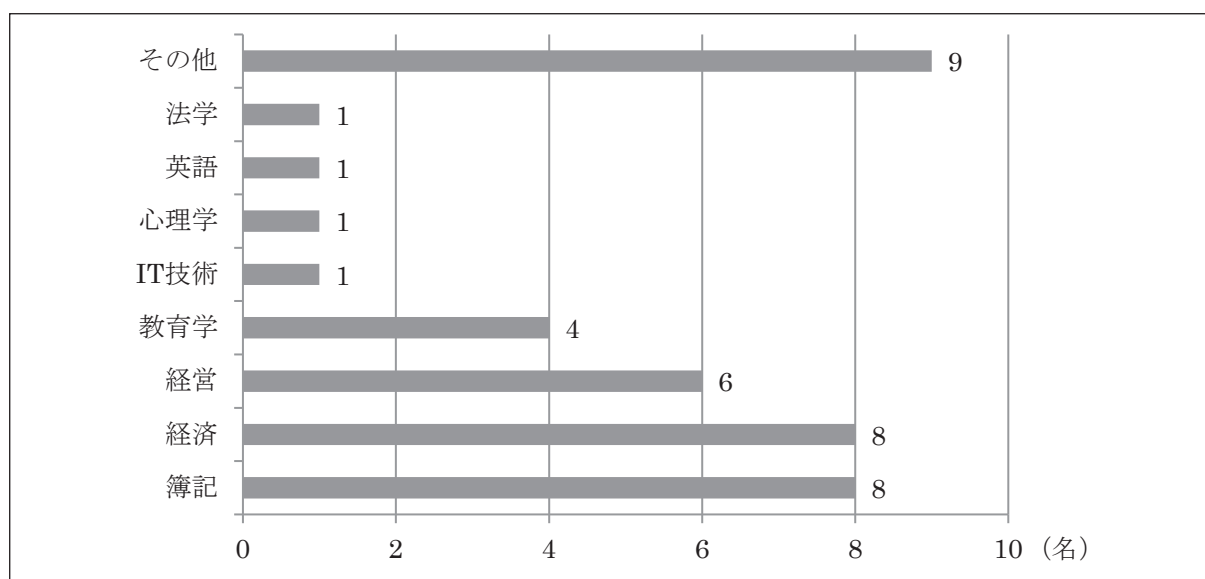


図6. 【日本に留学して学びたいこと（自由記述）—日本語・日本関係以外】

境がある。「会話」を学びたいと考えるのは当然といえよう。次に「文学」13名、「聴解」10名、「作文」6名と続く。また、日本関係のなかでは、「伝統文化」などに興味のある学生が23名と多い。次いで「日本文化」15名、「日本料理」13名と続く。実際本学に來た交換留学生は華道、茶道等を履修する学生が多い。

日本語関係以外に学びたいものは「簿記」8名、「経済」8名、「経営」6名、「教育学」4名、などもあげられていた。「簿記」、「経済」に関しては本学の教員が嶺南師範学院で集中講義を行っていることも大きいと思われる。その他には趣味的なものとしてアニメ・マンガ制作、ドラマ・俳優、自動車、弓道、撮影・カメラ、将来の仕事に関わるものなのか、化粧品制作などがあげられていた。

IV. 総括及び本学の日本語、日本関係の授業へのニーズ

本節では、既述の嶺南師範学院のカリキュラム、学生のニーズを考慮に入れ、本学の日本語、日本関係の授業をどう組み立てるかを考える。

嶺南師範学院の日本語カリキュラムは大変充実しており、結果として3年生でN1レベルまで取得することが十分可能な内容となっている。日本語理解の背景となる知識—文化、歴史、さらに日本の礼儀などの涵養にも配慮されている。そして日本語能力を活かす就職に対応するような課程も充実している。

嶺南師範学院の学生を対象にした日本留学におけるニーズ調査の結果においては、日本語関係では会話、聴解など、日本留学が最も効果がある技能の向上などに対する期待が大きい。文法、ことばよりもコミュニケーションを重視する既述の中国の「教学指針」と一致する。伝統文化(茶道、華道など)の体験や文学に対するニーズも高い。日本語、日本関係以外ではビジネスに直結する科目に対してのニーズが高い。日本語を勉

強する目的が「日本語を活かした仕事」とした学生の多いことがこのニーズの高さに反映していると思われる。

日本語、日本関係の担当者としては、このようなニーズに応じた日本語、日本関係などの授業も必要だと思われるが、一方で日本語の授業は週1回～2回という時間的制約も考えなければならない。結論として「書くこと」を中心の日本語授業が最も有益だと考える。なぜなら嶺南師範学院の日本語カリキュラムにおいて、「書くこと」に関して他の3技能に比して授業時間数が少ないからである。さらに交換留学生は帰国後の8学期、4年後期に卒業論文提出が控えているからである。

また、本学の日本語授業のシラバス構築に際して、嶺南師範学院の学生、というよりは本学の学生に要求される能力の涵養という視点が最も重要だと考える。本学の授業ではレポート、授業感想など日本語で書かなければならないことが多い。また就職に際しても、履歴書、作文など、書くことが必要となる。

さらに、本学には嶺南師範学院の学生のみが在籍しているわけではなく、本学の正規留学生及び韓国の東新大学からの留学生も存在していることを考慮に入れなければならない。これら全留学生の留学目的の共通していることは、日本語の能力を活かした就職であると思われる。書くことは、話すこと、聞くことと違い、自然習得が難しい。書く能力の養成を主軸に日本語の授業を構築することが最も妥当だと考えられる。

嶺南師範学院の学生のニーズの高い会話力、コミュニケーション力の養成に関しては「異文化コミュニケーションスキル」などでの養成が有効である。この授業では、日本人学生、留学生が異文化のもたらす様々な課題についてグループでディスカッションを行っているからである。日本人学生とのディスカッションという環境は嶺南師範学院では得られないし、ディスカッショ

ンを通して、会話力、コミュニケーション力を養成できると考える。また本学の日本人学生にとっても、この授業に留学生が参加することで、異文化の視点を学ぶことができ、大変有益である。

嶺南師範学院の交換留学生のように日本語能力の高い留学生を人的資源として本学の学生に資する授業の展開を今後さらに検討していきたい。

謝辞

この報告書を作成するにあたって、嶺南師範学院の日本語学科の先生方には大変お世話になりました。快く授業見学をお許しくださり、授業後インタビューにも応じてくださいました。また、嶺南師範学院の交換留学生にはカリキュラムの日本語訳などをお願いしました。ニーズ調査に応じてくださった楊紅先生の「日本語翻訳理論実践」を履修している学生、程麗華先生のクラスの学生にも協力していただきました。ここに記して、感謝申し上げます。

文献

- 1) 嶺南師範学院ホームページ,
<http://www.lingnan.edu.cn/> (閲覧日2018.4.27)
- 2) 嶺南師範学院日本語学科カリキュラム(2018年3月26日嶺南師範学院外国語学部副学長楊紅教授提供)
- 3) 表2, 表3, 表4は上記の「嶺南師範学院日本語カリキュラム」から筆者が必要事項のみ抜粋して作成
- 4) 邢雪艷, 「中国における観光日本語の発展とシラバスの作成について」『ことばと文化』8, pp.35-56 (2017).